

大学英語教育学会（JACET）中部支部 2012年度12月定例研究会プログラム

日時： 2012年12月22日（土曜日） 14時～18時05分

会場： 中京大学名古屋キャンパス センタービル（0号館）8階0806教室
（地下鉄鶴舞線八事駅下車5番出口徒歩0分）

開会挨拶 14時00分～14時10分 大森裕實（愛知県立大学）

研究発表1 14時10分～14時40分 司会 片岡邦好（愛知大学）

生成文法の英語教育への応用—移動現象を題材に—

北尾泰幸（愛知大学）

研究発表2 14時40分～15時10分 司会 村田泰美（名城大学）

タスク中心の言語教育におけるコミュニケーション・ストラテジー指導の効果

小澤淑子（愛知きわみ看護短期大学）

研究発表3 15時10分～15時40分 司会 Leah Gilner（文京学院大学）

Web学習におけるNote-Taking

杉村 藍（名古屋女子大学短期大学部）、武岡さおり（名古屋女子大学短期大学部）

宇佐美裕康（中部大学大学院）、尾崎正弘（中部大学経営情報学部）

休憩 15時40分～16時00分

研究会発表（授業学研究会） 16時00分～16時30分

司会 佐藤雄大（名古屋大学）

大村はまと英語の授業研究

木村友保（名古屋外国語大学）

講演会 16時30分～18時00分

「ことばが育つ現場」としての大村はま国語教室

苅谷夏子（「大村はま記念国語教育の会」事務局長）

閉会挨拶 18時00分～18時05分

大石晴美（岐阜聖徳学園大学）

忘年会 18時15分～20時00分

（会場 「ボヌール」センタービル2階）

司会 吉川 寛（中京大学）

発表概要

研究発表1 14時10分～14時40分

生成文法の英語教育への応用—移動現象を題材に—

北尾泰幸（愛知大学）

生成文法理論は自然言語に潜む普遍的な文法構造を明らかにすることを目的としており、研究成果の教育面への応用について考えられることはあまりない。発表者もこれまでの自身の研究において、研究で得た知見を英語教育へ応用する術について考えたことは殆どなかったが、本発表ではこれまでの生成文法の研究で明らかになった文法事項をどのように教育面に応用すればよいか探してみたい。とりわけ wh 構文、分裂文、関係節、比較構文など、その派生に演算子の移動が関わっていると考えられる構文を題材にし、英語と日本語を適宜比較しながら、それらの言語現象を説明するとともに、英語教育への応用について考える。

研究発表2 14時40分～15時10分

タスク中心の言語教育におけるコミュニケーション・ストラテジー指導の効果

小澤淑子（愛知きわみ看護短期大学）

英語を専門としない短期大学生を対象としたタスク中心の言語指導にコミュニケーション・ストラテジー（CS）指導を取り入れた。ペアを交代しながら特定のテーマについて意見交換タスクを行い、タスク活動後に録音した会話を教員が評価した。学生は自分たちの会話を書き起こし、自己評価、コメント、使用した CS とその使用についての努力の要否を記録した。これらのデータを分析した結果、努力の要否を含めた特定の CS やテーマの好み、コメント、CS 使用の間に有意な相関がみられ、特定の CS を努力して使用させることが他の CS 使用や会話力、会話に対する肯定的見方などに影響し、コミュニケーション能力向上が期待できるものと考えられる。

研究発表3 15時10分～15時40分

Web 学習における Note-Taking

杉村 藍（名古屋女子大学短期大学部）

武岡さおり（名古屋女子大学短期大学部）

宇佐美裕康（中部大学大学院）

尾崎 正弘（中部大学経営情報学部）

Web 等を用いた e-learning は、学習者にとっては好きな時間に自分のペースで学習でき、また教員はその学習履歴を指導に役立てることができる。ただし、学習時間や正解率などの履歴情報だけでは把握しにくい、学習者がどのように理解しているのかといった質的なデータを採取することは難しい。そこで、学習者がこれまでに馴染んできた紙に書くという従来の学習法（Note-Taking）を組み合わせ、無機的にボタンをクリックするだけでなく、同時に体（手）を使い、書き込む必要のある情報を自ら選択し工夫するという学習法を取り入れ、学習実験を行った。その効果がどのようなものであったか、学習実験の結果を分析し報告する。

研究会発表（授業学研究会） 16時00分～16時30分
大村はまと英語の授業研究

木村友保（名古屋外国語大学）

英語教師も「ことばの教師」である。ことばの教師はことばを愛し、ことばを育て、ことばに誠実でなければならない。しかし、現実には英語の教師も、英語の学習者と同様に、「外国語」という隠れ蓑の下で、ことばの教師の本質を忘れがちである。そのことを国語教師、大村はまは気づかせてくれる。大村はまの国語教育は確かに名人芸的な要素を多分に含んでいるが、我々が目指すのは Bereiter や Scardamalia（1993）のいう Knowledge-building Society の構築である。実際、大村はまが実践してきたことは、自分が教えるどの生徒にもそのような社会を意識して教えてきたように発表者には思える。そこで、本発表では、そのような観点で、大村はまの「ことばの授業」の分析を試みる。

講演会 16時30分～18時00分
「ことばが育つ現場」としての大村はま国語教室

荻谷夏子（「大村はま記念国語教育の会」事務局長）

「不世出の国語教師」と言われた大村はま（1906～2005）は、「ことばを育てることは 心を育てること 人を育てること 教育そのものである」と言う。この信念の基礎となっているのは、ことばは、小手先で人並みに使えばすむような道具ではなく、本来、その人自身と分かちがたいほどのものであるはずだ、という言語観だ。「ことば＝私」というくらいの態度があってはじめて、ことばは、世界を理解し表現する力、追求する力、突破する力、伝わる力を持ち得る。そういうことばこそ、魅力的であり、学ぶ価値も、使っていく価値もある。そして、そういうことばを本当に習得するためには、心や脳が生き生きと連動した状態でなければならない。それは大村が国語教師としての長い経験で痛感し、覚悟したことだ。

生き生きした心と脳でことばを学ぶ生徒を教室に揃えるために、大村は、自分自身も非常に生き生きとした明確な関心を持って一つ一つの授業に向かった。ことばを教える、ことばを育てるという仕事は、「命じて、検査して、評価する」という機械的な、第三者的な姿勢で、手際よくやればこなせる仕事ではない。本当に問いたいことを心から問い、夢中になって追求し、苦勞しながら表現する、ということで、大村の教室で交わされることばは空疎に陥ることを免れた。教える人としての種々の具体的な工夫と知恵が、教室をさらに有機的な場にした。その具体例を紹介したい。

大村はまは、そうやって「ことば」を生き生きとした存在としてのみ教室に置いて、実に大事そうに扱い、生徒はいつの間にかことばが好きになり、ことばの力が育った。英語教育の世界でも重要な契機が、大村実践のそこそこに見いだせるのではないだろうか。

講演会講師紹介

荻谷夏子（かりやなつこ）氏

1956年東京生まれ、東京大学国文科卒業

大田区立石川台中学校在学中、不世出といわれた国語教師・大村はま（1906～2005）に学ぶ。その後、大村の晩年の10年間ほどを、講演旅行を共にするなど、傍らでその仕事を手伝う。大村の没後は、大村はま記念国語教育の会常任理事・事務局長として、大村はまの仕事に学び、継承しようとする活動に携わる。

主な著書に『評伝大村はま』（小学館）『教えることの復権』（大村はま、荻谷剛彦との共著 ちくま新書）。『優劣のかなたに』（筑摩書房）『かけがえなきこの教室に集う』。「週刊読書人」「総合教育技術」「信濃教育」などに連載。

忘年会のご案内

「ボヌール」にて、定例研究会懇親会も兼ねて、2012年の忘年会を行います。会費は5,000円を予定しております。準備の都合上、参加ご希望の方は12月18日（火曜日）までに、事務局まで電子メールにてお申し込みください。

今年最後の情報交換・意見の場として、多くの方々のご参加をお待ちしております。なお、当日のキャンセルはご容赦ください。

事務局からのお知らせ

- ☆ 中京大学は、喫煙場所を除き、キャンパス内は禁煙となっております。
- ☆ プロジェクターと通常のRGBケーブルは教室に設置されていますが、PCはご持参ください。また、特殊なケーブルをお使いの場合もご持参ください。
- ☆ 配布資料は各自でご持参ください。
- ☆ 当日、第8回中部支部役員会（12：00～13：15）を行います。役員は同会場0号館7階07Dにご参集下さい。
- ☆ 次回の定例研究会は、2月23日に開催します。研究発表申し込みの締め切りは1月18日です。発表希望者は、氏名・所属・タイトル・概要（日本語300字または英語200語程度）を記載の上、メールで下記事務局までお送りください。件名は「JACET 定例研究会発表申し込み」としてください。

定例研究会に関するお問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

支部事務局：名古屋工業大学 石川有香研究室内

ishikawa.yuka@nitech.ac.jp

